

今日のトピック 金利上昇局面での米国中小型株市場 中小型株の相対的に高い利益成長に期待

ポイント1 主要株価指数は5日に史上最高値を更新 経済指標の上振れ、税制改革に対する期待が背景

- 10月第1週の米国株式市場は、米ISM景況感指数などの経済指標が上振れたことや、トランプ政権の税制改革に対する期待が続いたこと等を背景に、堅調に推移しました。NYダウ、S&P500、ラッセル2500（代表的な中小型株指数）、ラッセル2000（代表的な小型株指数）などの株価指数は、5日に最高値を更新しました。
- 6日に発表された9月の非農業部門雇用者数は前月比▲3.3万人となり、市場予想（同+8.0万人、ブルームバーグ集計）を下回ったことで株式市場は下落しました。ただ、今回の雇用者数の減少は、ハリケーンによる影響を受けた一時的なものである可能性が高く、株式市場への影響も限定的と思われる。

ポイント2 金利上昇局面で堅調な米国株式市場 大型株の騰落率を上回る中小型株

- 米景気の基調は強いと見られることから、米連邦準備制度理事会（FRB）は引き続き金融政策の正常化を進める見込みです。
- 1997年以降の4回の金利上昇局面で、米国株式の騰落率はすべてプラスです。この期間の金利上昇局面は景気拡大局面であり、業績の拡大を伴うことで株式市場には好環境です。
- その局面では、中小型株の騰落率が大型株を上回りました。金利上昇局面は、金利コストや賃金コストなど様々なコスト負担の増加が想定されますが、中小型株はそうしたコストを上回る利益が期待できる、競争力のある企業が相対的に数多く存在するためと考えられます。

【金利上昇局面と米国株式のパフォーマンス】



今後の展開 中小型株の相対的に高い成長率に期待

- 今後は緩やかに金融政策が正常化される見通しです。景気の拡大が続く中、緩やかに金利が上昇すると思われませんが、コスト負担を上回る中小型株の高い利益成長に期待が集まりそうです。

(注1) データは1997年8月末～2017年10月末。10月末は6日現在。中小型、大型株は1997年8月末を100として指数化。

(注2) 中小型株：ラッセル2500、大型株：S&P500。いずれも配当込み、米ドルベース。政策金利はFOMC金利誘導目標の上限。長期金利は10年国債利回り。金利上昇局面は1年以上にわたり長期金利が1%以上上昇した局面。グラフ中の数字は上段赤が中小型株、下段青が大型株の金利上昇局面における騰落率。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年10月10日 天候の影響を受けた米国の雇用統計 (2017年9月) 2017年10月 6日 好調な米国中小型株市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。